↑周辺の山の風景。夕陽を浴びて美しい光景であるが・・・・

←ゴムの植林。
中国の業者との契約栽培と言う。業者から苗木の提供を受けて、一定の価格で買い取る契約。この場合、買い取り価格は低く設定されているのだろう。あるいは、苗木を買い取り、樹液を時価で販売する。二つの形態がある。
Ａさんは、後者の方式を採った。
生ゴムは２万K（200 円）/Kg
業者の噺では樹液が採取できるのは３０年から４０年と言う。この間、一本のゴムの木から累計１２０万K（１万２千円）の収益に成ると言う。その後は木材や家具の材料になると言う。ゴムの木は土地がやせるとのこと。
この木は来年あたりから、樹液が採れるとのこと。そうなれば、トラックではなく、乗用車が買えるとの皮算用。
水牛は概ね、この地域でも農耕用の役割を終えて、ビーフキャツル（肉牛）になっているが、これを売って、苗木の費用に充当することが多いようだ。
稲刈り後の田に水牛を放牧したいが、村の水牛の数が減少したとのこと。ゴムの他に、チークがこの地域以外にも、盛んに造林されているのが見られる。

Sam kang 村のＡさん宅に到着・二晩の宿をおせわになった。農家生活を紹介します。

←ウドムサイからの道路経路
南西のタイ方向へ向かって約６０㎞

動画→
車窓の風景・ウドムサイ郊外を離れる

↑日は西に傾く頃。二階建てのお宅。庭にはモミの乾燥作業。ナツメヤシの大木が木陰をつくる。

10Nov.1012

ＳＡＭ　ＫＡＮＧ村にて

０８：００　起床

０８：４１　朝食

０９：４０　村を巡る

１１：３４　結婚式に出席して見物する。その席でウドムサイ県ベン郡の郡長に出会う。

１５：００　再びＡさん宅に帰る。

帰路、「壺酒」を売る店に寄り、試飲して買う。

昨夜話題になっていた女性の居る酒場に立ち寄る。

１６：００　Ａさんの姻戚宅に帰着。野外で涼をとりながら休憩。

１８：００　手首に綿の紐を結えて、絆をつくり安全・健康を祈る儀式を受ける。

２０：００　Ａさん宅でも同様の儀式を受ける。夕食、自家製の酒をともにする。

２０：１０　壺酒を楽しむ

２２：００　就寝

ここより数ページは村の生活を紹介します。

←家族、姻戚者が集まり、村の店で買ってきたビアラオで交流である。酔いが回り、興が乗ってくると、女性の居る酒場の噺になるのは、何処でも同じ。右は鮮明画像ではないが、おおきなトカゲ。住みついた家の守り神のように言われる。市場でも売っている。食すると旨いらしい。
朝はこれの鳴き声で眼がさめる。

←二階が寝室。床は板張り。このお宅では３組の夫婦が住む。それぞれが一張りの蚊帳を使う。右は客人の当方の蚊帳。このマットレスがすこぶる快適である。トイレは懐中電灯で屋外に出る。

当方は客人扱い。８時過ぎに起床する。家族は６時頃に起き出し、６時半には耕運機のエンジンの起動音が聞こえる。この時期、コメの収穫である。８時頃、息子たちはコメ袋を満載にして帰ってくる。

←持ち帰ったコメ袋を穀物倉庫に収納する。家族が出迎える。
倉庫は満杯状態。
Ａさんの話によると、今年はモミで２６０袋、約１０トンを収穫したと言う。玄米にして１０ａ約３５０㎏と推計できる。２ｈａを栽培する。かなりの土地生産性と思われる。
マーケットの値札を見ると、精米で３０００Ｋ/㎏、３０円である。何と言う低価格。収益性は極めて低位である。

←耕運機はヤンマー。
この家では２台の耕運機を所有する。

←籾摺り機、精米機。動力は発動機。
この村に電器が導入されたのは、つい最近のこと。

←動画
午後の木陰に子供たちが集まる。どの家の子供かは区別されない。みんな村のこどもである。
小動物を捕獲する道具は自作する。鉄パイプで散弾銃も作っていた。鳥を撃つのに実用になる。

←朝の１０時です。子供が採集してきた川ノリが乾燥されます。
洗濯物が干されます。徐々に洗濯機が入っているが、このお宅はまだ手で洗います。化学洗剤が使われます。冷蔵庫は完備。

↑村の水浴び場。この時間になると婦人たちがシャンプーや手桶、洗濯物を抱えて水浴びに来ます。その場が村の中心か、村の地図らしきものが書かれた看板がある。当方には今いるところがどの位置なのか判らない。
この季節、当方にとっては、朝と夕は、冷たすぎて水浴びは無理。１０時頃、日差しが強くなってから浴びることにした。爽快である。この水は上水道ではない。谷水を落差を活用して蛇口で供給しているもの。各戸に水槽を設置した水浴び場（洗濯場を兼ねる）があり、ここの水を運んで使う。水は貴重である。

←Ａさん宅。右が母屋。正面が穀物倉庫。その床下に織物の染色場、精米モミすりの農作業場。母屋の横に水浴び場、トイレ、炊事場が別棟で設置されている。
近くにツーリストのバンが停まる。西洋人ツーリストが現れた。何処からと聞くと、フランス。目的を聞くと、村を見て歩いている。こんなこともある。　→

↑農機具庫。耕運機。

↑豚は舎飼い。

↑薪が使われます

←トウモロコシが貯蔵されます。例のオレンジ色の強い飼料用。

集落うらに広がる農地では農作業中　→

←↑男性は農作業、女性は家事。織物の染色をする。インデイゴ。
染色した布を朝の陽光で乾燥。

←自家醸造の酵母が乾燥されます。焼酎をつくります。ラオラオと呼ばれ、それぞれの農家によって味が変わります。家庭ではビールは飲まれません。これを楽しみます。

↑小型の野生獣（ネズミかモグラの類）が調理されます。解体、薪で焼く、皿に盛る。

←ニワトリが解体される。客人や手首に糸を巻く儀式のときなどに食される。放し飼いである。野生のニワトリに近いようなもの。タイヤが半切にされ給餌器。

←犬も子供もユッタリ遊ぶ。客人の遅い朝食。ご飯とスープ→

村を巡回する

↑村を貫通する道路。整備水準は高い舗装道路。前方はタイ・中国に通じる。この周辺に集落形成されている。ラオスでは特にモン族のような山の民を道路周辺の平場に移住させる政策が治安の管理の必要からも採られているが、この村の皆さんはもともとここに集落を形成していた。従前の細い集落道に道路が築造された。ごく最近のことと言う。
電気は２年前に導入。上下水道は未整備。電話は携帯。誰でもが持っている。
画像のようなショップが複数あり、生鮮食品から、ビール、学用品まで日用品は何でも揃う。

↓村の佇まい。

↑伝達事項や緊急の事態には、太鼓を打ち鳴らし、左の集会場に村人を集めた。今、屋外のスピーカーによって必要事項が伝達される。右の画像は集会施設（文化活動施設でもある）を新築中である。ベトナム縁の集落であることから、ベトナムデイエンビエンフ―県の支援によるものとか。工事中。
間もなく完成。

↑通婚圏が限られていたのか、村中が姻戚関係のようである。曰く兄弟の家、その嫁の出所の家、その妹の家などなどである。またＡさんは、父が村長を務めたような有力者で、信望も厚いのか、村を歩くとあちこちから声がかけられる。左は孫の育児をする。右は幼児の子育て中の女性が住む。
雨季の状況が想像出来る。集落整備が急がれる。用排水、集落道の整備（簡易なものでいいのだ）の必要性が痛感される。

↑両農家で、同じように、絆を誓い、健康安全祈願の儀式をやってくれる。一族の皆さんがそれぞれが、ご飯を少量、手に渡してくれる。それを手にしたままの状態で呪文を唱えながら、綿糸を手首に巻いて結んでくれる。明日はここを離れることになる。絆を深めて別れの儀式でもあるようだ。

↓「壺酒」のふるまいを受ける。先にも述べた、何とも評することばの見つからない味である。少し甘すっぱいものである。それぞれが同時に細い竹筒を突っ込み吸い上げる。液の表面にはコメ、モミの混じった発酵途中の物が浮かんでいる。飲めば、その液面が下がる。水を元の液面になるよう注いで、再び吸い上げて飲む。これの繰り返しである。翌日には再び表面に泡が吹き出し、発酵が進んでいると言った物である。

この後、再び部屋にもどり。自慢のラオラオが出される。話がはずみ、６０を超えるおじさんが、ポツリと「ラオスも何時になったら、日本のようになるのでしょうね？」と問いかけられたのが、耳に残って、印象的であった。答えようも無かったが、「先ず、電気、水道、道路などのインフラ整備が必要ですね。その上で、コメ、トウモロコシ、ゴム、チークがあれば大丈夫、頑張ってください」などと言ったのが恥ずかしい。農業の基盤整備と水の確保、地域の農業生産体制の再編が必要なのだが・・・・

←動画
モミの乾燥風景。懐かしい。撹拌用具も同じもの

←動画
農村風景が延々と続きます。村からウドムサイの間

地方の結婚式の披露宴に出席する機会を得たので紹介します。

結婚式の案内状は対象の家庭に手持ちで配達される。郵便局に留め置きで、各戸への配達制度はない。式にはお祝い金を出せば誰が出席してもいいと言う。披露宴は郡の中心部の小学校校庭で開催される。結婚式も披露宴の場で行われることが多い。我々は式の終了後、宴の始まる前からの参加である。
会場は車で約２０分のところ。招待された村のみんなが、Ａさんの車に同乗して大挙して出発。当方はズボンと革靴、ラオス風綿のシャツの正装。同行の家族はラオスの婦人服を借用しての出席。
お祝い金は普通、３００～５００円程度のようだ。我々は、外国人でもあり、１０００円超を拠出。

入り口には新夫婦の写真が飾られ、デコレーションされている。ここでお祝い金を出し会場に入る。主催者姻戚縁者が二列に並んでサバイデイ、カプチャイの声で迎えられる。巨大なテントが張られている。テーブルにはビアラオ、肉料理、野菜料理、果物、ご飯が並べられている。２００人以上の席である。相当の有力者の披露宴だと言う。普通、テーブルにビアラオが、しかもふんだんに並ぶことは無いという。ビールは高価な飲み物。炎天下のテント会場は暑い。

専門の司会者が面白く宴を進める。バンドの演奏が巨大な音響設備で流される。新郎新婦を囲んで姻戚縁者が並び祝福を受ける。

郡長さん（女性）も出席。新夫婦のダンスに続いて、次々出席者が踊り出す。テーブルでは飲んで食ってオシャベリが続く。終わりはない。三々五々席を離れて宴は終わる。

↑動画　新朗新婦　　↑動画　ダンス　　↑動画　会場　　↑動画　入口

結婚披露宴会場からの帰路の風景

披露宴会場はこの地方での中心でチョットした町を形成している。マーケットがある。何でも揃う。電器屋もありテレビや携帯電話を売っている。宿泊した村にも日用品のショップは複数ある。そこで手に入らないものはこの町で、それ以上の物はウドムサイで用を足す。定住圏域、地域中核的な町、大都市といった構成になっている。

壺酒（つぼさけ）屋。↓
Ａさんが試飲して、品定め。購入した。客人（当方）を今宵もてなすためか？
コメとモミ付コメを混ぜて発酵させたもの。発酵途中のもの。味は何とも言えないもの。甘すっぱい味である。アルコール度は高くない。ワインでも発酵途中での飲み方もある。そのようなものと考えれば、同じ文化である。
壺酒屋の道路反対側に路線バスが停まる。乗り込む若者あり。

↓女性とサケ
道路に面して池の上にせり出すようにこんな建物が。
結婚式に出席した車に同乗したみんなが店にはいることに。
女性とサケを提供する。昨夜ビールを酌み交わしながら話題になった店。店内には若い女性３人と店主。
Ａさんは店主とも顔なじみらしい。
女性は１５歳。ルアンパバーン付近の村からきているとのこと。店内にはそれらしき小部屋あり。
店の前は一面に刈り取り前の稲穂が黄金色に輝き、風に揺れていた。